

公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団

2014年（平成26年）度事業報告

〔2014年（平成26年）4月1日～2015（平成27）年3月31日〕

トピックス

児童福祉施設の子どもたち「夏休み職場体験」で毎日放送へ



「2014年度第1回夏休み職場体験」が7月30日、大阪市北区の毎日放送で行われた。社会福祉法人大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部と本団の共催。大阪府内の児童養護施設から11人の中・高校生らが参加。MBSアナウンスセンターの協力で、ニュースを作り上げるための手順や定時ニュースを収録するスタジオでのキャスター体験などをした。

配食サービス車「しみんふくし滋賀キッチンゆうゆう」に贈呈



国際高齢者年の1999年から始めた「配食サービス車贈呈事業」は、3月から毎日新聞紙面などで一般公募し3団体からの応募があった。6月に選考委員会がありNPO法人しみんふくし滋賀「キッチンゆうゆう」に決定。8月29日に滋賀県野洲市の同法人で贈呈式を開き配食車1台を贈った。

8月豪雨災害救援金



広島市や京都府福知山市などで土砂崩れや浸水被害が出たことから8月26日、毎日新聞紙面で「8月豪雨災害救援金」の募集を開始。3月までに1,112件1,701万円が大阪事業団に寄せられた。9月22日に第1次分を広島市に1,000万円、日本赤十字社京都府支部へ100万円を贈呈。10月29日に第2次分を日赤兵庫支部へ100万円、日赤徳島支部へ100万円を贈呈。11月20日に第3次分を広島市へ350万円。12月26日に第4次分を広島市へ29万円。3月13日に第5次分を広島市へ3万円を贈呈した。贈呈額は合計1,682万円となった。

世界子ども救援キャンペーン



大阪本社社会部・松井聡、写真部・望月亮一記者をハイチ共和国とドミニカ共和国に5月28日から6月26日まで派遣した。児童売買と2010年に発生した大震災の被災者をテーマに首都ポルトープランスなどを中心に取材。「見えない鎖ハイチ・ドミニカ報告」のタイトルで7月22日付朝刊から27日まで6回にわたり連載した。8月31日、10月5日には見開き特集も掲載した。

公益事業 1 国内外の福祉に関する事業

(事業種別3, 4, 6, 7, 11, 12, 15)

(1万円以下は切り捨てて表示しています。)

「社会福祉のために」などと寄せられた一般寄付金は3月末日現在で409件672万円(小児がんを含む・昨年度419件859万円)。歳末の「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札・即売会」の売上と歳末義援金の合計2,934万円(昨年度3,471万円)、併せて3,606万円(昨年度4,330万円)。「指定寄付金」24万円を加え、受取寄付金総額3,631万円(昨年度4,470万円・毎日新聞社寄付金含む)となった。これらの寄託金を基に次の事業を行った。

児童福祉に関する事業

主催事業

(主催公演事業 事業区分17)

◎「施設児童就職予定者研修会・児童福祉施設から就職する生徒に祝い金贈呈」

(支払負担金より103万円を支出)

大阪府内の児童養護施設から中学、高校などを卒業して就職する生徒を対象に、社会人としての心構えなどを聴く研修会を2月7日、大阪市天王寺区で開催した。また、その会場で大阪府内の児童養護施設から中学校、高校を卒業して就職する103人(全員)に激励の意味を込め祝い金を1人1万円ずつ贈呈。社会福祉法人大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部、大阪府社会福祉協議会と共催。本団は祝い金贈呈を担当。

(研修会は1975年～・祝い金は1962年～)

この他、大阪府社会福祉協議会と大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部共催で本団が後援した自立生活技術講習会(ソーシャル・スキル・トレーニング)が年13回開かれた。

共催分担金事業

◎平成26年度ゆうゆう(フレンドシップ)キャンプ(支払負担金より40万円を支出)

1997年からの事業で18回目。大阪府青少年活動財団、府下の児童家庭相談室と共催し、被虐待児童を対象に、共同生活を通じて自立心や社会性を育てることを目的としている。8月12、13日に大阪府貝塚市の大阪府立自然の家で1泊2日のキャンプを実施。ケースワーカーらを含めて30人が参加した。10月19日には大阪府河内長野市の関西サイクルスポーツセンターで、2015年2月7日には高石・堺市の臨海スポーツセンター、浜寺公園で日帰りキャンプを実施した。

◎大阪交通遺児を励ます会との近畿地方ボウリング大会

(支払負担金より60万円を支出)

6月15日、大阪交通遺児を励ます会と共催。大阪市北区梅田の桜橋ボウルで近畿各地の交通遺児、病気遺児、災害遺児とその家族ら90人が交流した。開催経費分担助成した。

◎「白崎青少年の家」野外活動キャンプ（支払負担金より10万円を支出）

前年までは「第46回ハチ北林間ホーム」として8月に開催。場所と日程を変更して大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。大阪市が管轄する児童福祉施設の6年生を10月11日～12日、和歌山県由良町の白崎青少年の家へ野外学習に招待した。

◎「第29回駅伝・ロードレース大会」（支払負担金より5万円を支出）

大阪市が管轄する児童福祉施設の小・中学生300人が参加する駅伝ロードレース大会。1月25日、吹田市の弘済のぞみ園グラウンドで開催。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。

◎「第46回新春こども大会」（支払負担金より10万円を支出）

大阪市が管轄する児童福祉施設の子どもたちが冬休みに練習した踊りや演劇などを発表する「新春こども大会」を大阪市の天王寺区民ホールで2月1日に開催した。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。

（キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分8）

◎「母の日・父の日募金キャンペーン」（支払助成金より103万円を支出）

「プレゼントをあげる親がもういない」という声をきっかけに始まった「母の日・父の日募金キャンペーン」。5月11日、6月13日付毎日新聞紙面で募金を呼びかけ、58件104万円が寄せられた。この中からNPO法人児童虐待防止協会へ40万円。あしなが育英会に63万円を贈呈。

児童福祉特定団体助成・支援事業（文末のカッコ内は：支払助成金または経費）

- * 母子生活支援施設「母と子の一泊旅行」＝7月5～6日、大阪府民間母子生活支援施設連絡協議会の主催。本団が単独で助成後援した。大阪府内の2民間母子寮の母子40人を、和歌山・白浜温泉と白浜アドベンチャーワールドへのバス旅行に招待した（28万円）。
- * 平成26年度琵琶湖セツルの家事業＝7月1日～8月31日。大阪市地域福祉施設協議会の主催。滋賀県大津市青柳浜の琵琶湖畔に宿泊施設を開設し、保育所、児童館、子供の家などの利用者に開放。本団が単独で助成後援（8万円）。
- * 「2014年ふれあいキャンプ」の後援と助成＝8月19～21日、愛の手運動（里親さがし運動）を展開する家庭養護促進協会が主催する小学1年生以上の里子を対象としたキャンプ。徳島県阿南市のYMCA阿南国際海洋センターで。本団が単独で助成後援（18万円）。

- * 平成26年度「第61回児童福祉施設スポーツ大会」＝8月20日～21日、名古屋市の大高緑地公園野球場で。本団が助成後援（1万円）。
- * 「第42回北摂養護施設連盟 北摂子ども大会」＝12月7日、北摂地域の児童養護施設の子どもたちのスポーツ大会。茨木市公園（北）グラウンド。日頃の練習の成果を披露し、他施設との親睦を深めた。本団が助成後援（10万円）。

助成を伴わない事業

- * 児童福祉施設の子どもたち「夏休み職場体験」で毎日放送へ＝7月30日、大阪市北区の毎日放送で行われた。社会福祉法人大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部と毎日新聞大阪社会事業団の共催。大阪府内の児童養護施設から11人の中・高校生らが参加。MBSアナウンスセンターの協力で、ニュースを作り上げるための手順や定時ニュースを収録するスタジオでのキャスター体験などを行った。
- * 児童施設に絵を贈る運動＝12月、子どもたちの情操教育のために「チャリティ一名士寄贈書画工芸作品入札・即売会」に寄せられた中から絵画9点を愛知、岐阜、三重の児童養護施設に贈った（「歳末たすけあい」にも記述あり）。また、2月5日には名古屋市内の児童養護施設3カ所に絵画を贈呈した。

高齢者福祉に関する事業

主催事業

（助成「応募型」）事業 事業区分13）

◎配食サービス車贈呈事業（支払助成金より車両費用170万円を支出）

国際高齢者年の1999年から始めた「配食サービス車贈呈事業」は、3月から毎日新聞紙面などで一般公募し3団体からの応募があった。6月に外部の選考委員による選考委員会がありNPO法人しみんふくし滋賀「キッチンゆうゆう」に決定。8月29日に滋賀県野洲市の同法人「キッチンゆうゆう」で贈呈式を開き配食車1台を贈った。

医療福祉に関する事業

（キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分8）

◎「小児がん征圧キャンペーン」（支払助成金より90万円を支出）

毎日新聞社と展開しているキャンペーン「生きるー小児がんのこどもたちとともに」と連動した「小児がん征圧募金」は4月～2015年3月末までに104件120万円が寄せられた。（1996年からの継続事業）

本団からは3月に贈呈式を開き、次の6団体に計90万円を贈呈した。

- ・チャイルド・ケモ・ハウス（神戸市）15万円

- ・日本クリクラウン協会（大阪市） 15万円
- ・近畿小児血液・がん研究会（吹田市）15万円
- ・京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ
「にこにこトマト」（京都市） 15万円
- ・京都ファミリーハウス（京都市） 15万円
- ・あいち骨髄バンクを支援する会（名古屋市）15万円

心身障害者福祉に関する事業

（その他特定団体や弱者への救援事業 事業区分 18）

共催分担金事業

◎第17回視覚障害者 I C T ・ サポートボランティア講習会

（支払負担金より 30 万円を支出）

1997 年度からの事業で日本ライトハウス情報文化センターと共催。視覚障害者の情報環境を支える機器（インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー）を利用する視覚障害者に操作方法などを教える指導者養成のための講習会を5月～12月の全10回を開講。社告で受講者を募集。ボランティア各回15人が受講。

◎第27回専門図書点訳・音訳講習会（支払負担金より 100 万円を支出）

専門図書の点訳、音訳の技術を修得するための講習会で、日本ライトハウス情報文化センターと共催。専門点訳は「エーデル基礎」「理数（高校）」。専門音訳は「東洋医学」コースを開講。受講後は点訳・音訳ボランティアとして活躍してもらう。

- ・専門点訳講習会「エーデル基礎コース」6月12、26日
7月4日、18日。2回。20人。
- ・専門音訳講習会「東洋医学コース」6月13日～7月18日。全5回。15人。
- ・専門点訳講習会「理数（高校）コース」9月3日～10月29日。全5回。16人。
- ・専門点訳講習会「デイジー編集コース」・基礎編3月5、6日。全2回。10人。
・応用編3月12、13日。2回。40人。

◎2014年度「声の点字毎日」の発行を助成（支払負担金より 10 万円を支出）

全国の国立ハンセン病療養所で生活している視覚も皮膚感覚も失った人たちに点字新聞を発行する点字毎日の「声の点字毎日デイジー版（月2回発行）」を寄贈する事業。費用の内、東京・西部社会事業団とともに10万円を分担した。

（表彰、コンクール事業 事業区分 14）

◎「全国盲学校弁論大会」（支払負担金より 20 万円を支出）

第83回全国盲学校弁論大会が10月3日、茨城県水戸市の県立歴史館で開かれ、福岡県立福岡高等視覚特別支援学校高等部普通科2年の柿野明理さんが優勝した。毎

日新聞社点字毎日、全国盲学校長会と共催。本団は 2002 年度から共催に加わった。
(1928 年～)

心身障害者特定団体助成・後援事業（文末のカッコ内は：支払助成金）

- *「第49回全大阪ろう社会人軟式野球秋季大会」の記念楯代助成＝7月13日、8月3日、大阪府宮久宝寺緑地公園軟式野球場で。記念楯代金を助成後援した（1万円）。
- *「第42回愛知心理療養キャンプ」の助成＝8月18～23日、愛知県蒲郡市のホテル ボンセジュールで。助成後援した（3万円）。
- *「第39回わたぼうし音楽祭」の助成＝9月7日、奈良市の奈良県文化会館で開かれ、わたぼうし大賞に宮崎県都城市の小山貴也さん（43）作詩作曲の「Sorry D'addy」が選ばれた。奈良たんぼぼの会主催の同音楽祭を毎日新聞社とともに本団が後援助成した（20万円）。
- *名古屋市視覚障害者協会が発行する機関紙「のぞみ」第35号発行＝発行費用を助成した（3万円）。

その他目的を達成するために必要な事業

（表彰、コンクール事業 事業区分 14）

◎「毎日社会福祉顕彰」（支払負担金より 173 万円を支出）

毎日新聞大阪社会事業団創立 60 周年記念事業として始め、44 回目。社会福祉の分野で献身的な活動をしている個人、団体を顕彰する。毎日新聞紙面などで公募し 5 月末に応募を締め切り、厚生労働省や大学教授らからなる審査会を経て次の 3 団体が選ばれた。贈呈式は 10 月 8 日、毎日新聞東京本社で行われ、賞牌と賞金（1 件につき 100 万円）を贈った。

◇明石恒浩さん＝ザ・ブラフ・メディカル&デンタル・クリニック院長。（横浜市）
フィリピンの大学で医学を学び英語とタガログ語に精通。地域の医療機関として 1987 年着任以来、文化の多様性の理解に努め言葉の壁に苦しむ外国人患者を分け隔てなく支える。

◇桐生清次さん＝社会福祉法人七穂会理事長（新潟県新発田市）
教員時代に特別支援学級の担当となって以来、知的障害者に寄り添って 40 有余年、定年退職後も自ら授産施設の施設長となり、さらに 3 施設を新設。障害者雇用への理解を得るために企業や団体や大学から受け入れた研修生は約 3000 人。

◇岩田美津子さん＝NPO 法人てんやく絵本ふれあい文庫代表（大阪市）
市販の絵本に手作業で点訳を付け無料で貸し出しする「てんやく絵本ふれあい文庫」を約 30 年前に開設。生まれつきの全盲で息子に絵本を読み聞かせたいと活動を開始。ボランティアの手作業で年間 7,000 冊を郵送する。出版社に働きか

けて触って楽しめる点字絵本の出版も実現させた。(1971年～)

(助成(応募型)事業 事業区分13)

◎「公募福祉助成金制度」(支払助成金より120万円を支出)

国内外の地域で福祉活動に取り組む団体や先駆的事业でどこも援助先がない団体への一般公募の事業助成金制度。11月8日に紙面で告知。1月29日に選考委員会を開催。申請のあった7団体の内、下記の5団体に総額120万円を贈呈した。

〈公募福祉助成金〉

- | | |
|------------------------------|------|
| ・公益社団法人 家庭問題情報センター大阪ファミリー相談室 | 30万円 |
| ・和歌山県児童養護施設協議会 | 50万円 |
| ・NPO法人 京都難病連 | 10万円 |
| ・NPO法人 ひだまりの丘(名古屋市) | 20万円 |
| ・NPO法人 おおさか教育相談研究所 | 10万円 |

(キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分8)

◎「歳末たすけあい運動」

11月8日～12月25日にかけて「歳末義援金募集」や「チャリティー名士寄贈書画工芸作品 入札・即売会」などの催しを実施。義援金や収益金で歳末慰問金品や公募福祉助成金を贈った。

*「歳末義援金募集」

社告やこれまでの寄付者へのダイレクトメールで歳末義援金を募った。寄せられたのは776件912万円(昨年773件945万円)。14年度の歳末慰問金のほか、14年度の公益事業1(国内外の福祉に関する事業)の資金として活用。

*「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札・即売会」

11月29日～12月1日、毎日新聞ビル地下のオーバルホールで開催。売上は1,778(作品展期間外販売を含めると2,021万円)万円となった。

以上の事業の収益から、計75万円を歳末慰問金として次の団体に配分した。また、児童養護施設には所蔵絵画9点も贈った。

(支払助成金より75万円を支出)

- | | |
|----------------------------|------|
| ・大阪子どもの貧困アクショングループ | 10万円 |
| ・釜ヶ崎支援機構 | 10万円 |
| ・大阪更生保護施設連盟 | 5万円 |
| ・大阪家庭少年友の会 | 5万円 |
| ・エスペランス四日市(児童養護施設・三重県四日市市) | 15万円 |
| ・プティヴィラージュ(同・愛知県岡崎市) | 15万円 |
| ・大野慈童園(同・岐阜県大野町) | 15万円 |

* 「第47回歳末たすけあいチャリティー指導基会・棋力認定戦」

(支払助成金3万円、材料費として2万円を支出)

11月23・24日、スポーツニッポン新聞社、日本棋院が主催、本団の単独後援、大阪市北区で開催。収益5万円で囲碁セット3組を製作、漫画「ヒカルの碁」全23巻とともに2月に名古屋市内の駒方寮、名広愛児園、和進館児童ホームの3児童福祉施設に贈呈。所蔵絵画各1点ずつも贈った。

◎機関紙「そよかぜ」の発行 (印刷製本費より14万円を支出)

機関紙「そよかぜ」47号を6月1日に発行した。14万円。

◎「指定寄付金事業」(支払助成金より24万円を支出)

寄付金の中で助成先が特定された寄付金。「あしなが育英会に」「愛の手運動に」など20件24万円が寄せられ、指定先9団体に24万円を贈った。

その他の名義後援事業

と き	案 件 名	と ころ
3月～5月に募集。 11月に表彰式	「第12回オンキヨー世界点字作文コンクール」の名義後援について	
4月6日、27日	「第51回全大阪ろう社会人軟式野球春季大会」の名義後援について	大阪府久宝寺緑地軟式野球場・大阪市立長居公園運動場
4月13日	「第34回愛知県聴覚障害者体育大会」の名義後援について	名古屋市昭和スポーツセンター、庄内緑地公園、名古屋グラウンドホールなど。
4月17日～19日	「バリアフリー2014」の名義後援について	大阪市住之江区のインテックス大阪
4月1日～2016年3月	関西いのちの電話「電話相談ボランティア養成講座」の名義後援について	大阪市淀川区十三元今里3-1-72社会福祉法人博愛社5階会議室など
4月20日	「第32回日本ライトハウス チャリティコンサート」の名義後援について	大阪市北区のザ・シンフォニーホール
4月20日、5月10,17,24,25日	「平成26年度愛知県障害者スポーツ大会」の名義後援について	名古屋市千種区の星ヶ丘ボウル、豊田市運動公園競技場など
4月29日(雨天は5日)	「第46回せんりこどもカーニバル」の名義後援について	大阪府吹田市の千里南公園一帯
5月8日～11月23日	「第11回名古屋市障害者スポーツ大会」の名義後援について	名古屋市瑞穂公園陸上競技場など
5月23日～25日	「第17回国際福祉健康産業展～ウェルフェア2014～」の名義後援について	名古屋市のポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)
5月25日	「第21回共生・共走ルーマラソン」の名義後援について	大阪市鶴見区の花博記念公園
6月7日	「共に生きる18」の名義後援について	大阪府箕面市の箕面市立メイプルホール大ホール
7月5日	「第49回近畿肢体不自由児者父母の会連合会 大	大阪市中央区法円坂のアネックスパル

	阪大会」の名義後援について	法円坂7階「なにわの宮ホール」
7月6日	「第31回愛知県聴覚障害者大会」の名義後援について	愛知県安城市桜町17、安城市文化センター
7月19日	平成26年度合同求人説明会「福祉の就職総合フェア2014 in OSAKA」の名義後援について	大阪市住之江区南港のインテックス大阪2号館
8月5日～10日	「第35回子どもたちの讃歌展」の名義後援について	大阪市立美術館 地下展示室
8月6日	「第64回施設従事者激励会」の名義後援について	大阪市天王寺区の「新歌舞伎座」
8月7日	平成26年度全日本特別支援教育研究連盟「第51回近畿特別支援教育連絡協議会大阪大会」の名義後援について	大阪市北区中之島の大阪市中央公会堂など
8月8日～10日	兵庫県社会福祉事業団設立50周年・五色精光園セミナー開催第10回記念「発達支援セミナー」の後援名義について	洲本市塩屋の洲本市文化体育館
8月8日～13日	「第31回土と水と緑の学校」の名義後援について	和歌山県新宮市の高田地区一帯
8月22～24日① ・28～30日②	「ナイスハートバザールINキューズモール・第2回復興センター祭」の名義後援について	①あべのキューズモールB1F(大阪市阿倍野区阿倍野筋1)②あべのハルカス近鉄本店ウイング館8階街ステーションこもれび広場(同阿倍野筋1)
8月24日	「第53回近畿知的障がい者福祉大会」「第55回大阪知的障がい者福祉大会(堺大会)」の名義後援について	堺市南区茶山台の国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)および大型児童館ビッグハン
8月30、31日、9月7日	「第27回全愛知ろう社会人軟式野球秋季大会 兼 第39回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会予選選考会」の名義後援と楯の交付について	愛知県小牧市総合運動場野球場、さかき運動場野球場(小牧市)
09月27日	「家庭養護促進協会大阪事務所50周年記念事業」の名義後援について	大阪市阿倍野区阿倍野筋4の市立阿倍野区民センター小ホール
10月10日～13日	「第39回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会」の後援について	愛知県日進市の県営口論義運動公園野球場、日進球場
10月18、19日	「第33回スポーツフェスタ2014大阪」の名義後援について	大阪市のヤンマースタジアム長居(長居陸上競技場)など
10月18日	生き生き長寿フェア2014「はつらつ健康プラザ」の名義後援について	愛知県大府市、東浦町のあいち健康の森公園
10月19日	「ファインエリアフェスティバル2014」の名義後援について	堺市南区城山台5のファインプラザ大阪など
10月21日	「第62回愛知県社会福祉大会」の協賛について	名古屋市中区の愛知県体育館
10月26日	「第42回全大阪ろうあ者文化祭」の名義後援について	大阪市東住吉区の大阪市長居障害者スポーツセンター
11月4日	「第15回大阪救護施設合同文化事業」の名義後援について	大阪市都島区の「太閤園」迎賓館3階ダイヤモンドホール

11月8～9日	「第18回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会」の名義後援について	堺市堺区田出井2のサンスクエア堺 (堺市立労働者総合福祉センター)
11月8日	「第50回肢体不自由児者を支援するチャリティバザー」の名義後援について	大阪府八尾市山城町1丁目第1公園 (通称:買物公園)
11月12日	「平成26年度大阪府社会福祉大会」の名義後援について	大阪天王寺区の大阪国際交流センター大ホール
11月14～15日	「平成26年度医療社会事業従事者講習会」の名義後援について	大阪市中央区北浜東3のエル大阪南ホール
11月24日	「第59回名古屋市身体障害者福祉大会」の後援について	名古屋市中区役所ホール
12月3日～6日	「第21回ノーマライゼーション絵画・創作展」の名義後援について	大阪市北区の大阪市立総合生涯学習センター
12月20日	「NPO法人こころの子育てインターねっと関西 第25回フォーラム」の名義後援について	大阪人間科学大学 庄屋学舎(摂津市庄屋1)
12月21日	「第54回愛知県身体障害者福祉大会」の名義後援について	愛知県豊橋市神野ふ頭町3のライフポートとよはし
2015年1月20日～2月7日	「毎日ドクター無料人間ドック」の名義後援について	名古屋市中村区の毎日ドクター
1月22～27日	「第34回『障がいのある子どもに学ぶ』図工展」の名義後援について	大阪市長居障がい者スポーツセンター
2月3～8日	「第49回名古屋市障害者作品展示会」の後援について	名古屋市瑞穂区の名古屋市博物館 ギャラリー第1、2、3、8室。
2月7日	「素のままフェスタ2014」の名義後援について	大阪府豊中市の市立アケア文化ホール、市立中央公民館
2月12日	「第53回衛生教育大阪大会」「第57回公衆衛生大阪大会」の名義後援について	大阪市中央区の大阪薬業年金会館
2月15日	安心して長期療養生活ができるように 難病患者の医療と福祉を考える「府民のつどい」の名義後援について	大阪市中央区のエル・おおさか
3月8日	「第33回『耳の日記念』聴覚障害者と県民のつどい」の名義後援について	北名古屋市勤労文化会館(北名古屋市法成寺蔵化60)
3月11～15日	「第30回肢体不自由児者の作品展」の名義後援について	大阪市中央区大手前のドーンセンター1階パフォーマンススペース
3月12日	平成26年度 合同求人説明会「福祉の就職フェアSPRING in OSAKA」の名義後援について	大阪マーチャンダイズ・マート2階(大阪市中央区大手前1-7-31)
3月21～29日	「世界ダウン症の日写真展in大阪2015」の名義後援について	大阪市北区の梅田スカイビル40階 「空中庭園展望台ギャラリー」
3月22日	「こどもホスピスプロジェクト第2回公開セミナー こどものホスピス開館をめざして！」の名義後援について	大阪市北区の中央公会堂

公益事業 2 シンシア基金事業（事業種別 3）

（キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分 8）

◎シンシア基金

身体障害者をサポートする介助犬への理解を深め、育成や研究活動に役立てるため 1998 年から毎日新聞阪神支局が始めたキャンペーンと連動して募金を開始した。2015 年 3 月末までに寄せられた「シンシア基金」は 39 件 121 万円となった。

* 身体障害者補助犬シンポジウムに助成（支払助成金より 64 万円を支出）

身体障害者補助犬の社会的認知を促進するため、毎日新聞や宝塚市などで行う実行委員会が主催する身体障害者補助犬シンポジウム（11 月 16 日、宝塚市のアピアホール）の経費として 64 万円を支出した。

（助成（応募型）事業 事業区分 13）

◎シンシア基金助成事業（支払助成金より 100 万円を支出）

身体障害者補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）支援に関わる団体などに対する公募助成制度。11 月に紙面で一般公募し、1 月 29 日に選考委員会を開催。次の 2 団体に 50 万円ずつを贈呈した。

- ・ 社会福祉法人日本介助犬協会（本部は横浜市、訓練センターは愛知県）
- ・ NPO 法人兵庫介助犬協会（西宮市）

◇介助犬フェスタ 2014（名義後援）＝社会福祉法人日本介助犬協会主催、5 月 17 日、愛知県長久手市の愛・地球博記念公園内、地球市民センター。

公益事業 3 災害救助に関する事業（事業種別 3）

災害救援基金事業

◎ 8 月豪雨災害救援金（支払助成金より 1,682 万円を支出）

広島市や京都府福知山市などで土砂崩れや浸水被害が出たことから 8 月 26 日、毎日新聞紙面で「8 月豪雨災害救援金」の募集を開始。3 月までに 1,112 件 1,701 万円が大阪事業団に寄せられた。

9 月 22 日に第 1 次分を広島市に 1,000 万円、日本赤十字社京都府支部へ 100 万円を贈呈。10 月 29 日に第 2 次分を日赤兵庫県支部へ 100 万円、日赤徳島県支部へ 100 万円を贈呈。11 月 20 日に第 3 次分を広島市へ 350 万円。12 月 26 日に第 4 次分を広島市へ 29 万円。3 月 13 日に第 5 次分を広島市へ 3 万円を贈呈した。贈呈額は合計

1,682 万円となった。

◎東日本大震災救援事業

*** 東日本大震災被災者救援金**（支払助成金より 500 万円を支出）

今年度は3月末までに159件490万円が寄せられた（総合計7,528件4億7,177万円）。第12次分を7月に300万円、第13次分を3月に200万円をいずれも日本赤十字社に贈呈。今回で大阪社会事業団の寄託総額は4億6,027万2,718円となった。

*** 毎日希望奨学金制度**（支払助成金より5,154万円を支出）

東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児を支える「毎日希望奨学金」制度（毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団、毎日新聞社で創設）は4年目を迎え、奨学金基金への募金を毎日新聞紙面などで呼びかけた。今年度分は3月末までに1,240件2,198万円が寄せられた。また、東京社会事業団から5,000万円、西部社会事業団から450万円が寄せられた。

3月14日付毎日新聞朝刊で「毎日希望奨学生を募集」の社告を掲載するとともに被災地の高校や大学などに直接照会をかけた。50人の応募枠に対して55人が応募。4月30日に奨学生選考委員会が開かれ、全員一致で55人に支給が決定。奨学生数は継続者と合わせて215人（高校生118人、短大・大学生68人、専修学校生29人）になった。12月に1人退学。下記のとおり支出した。

- ・ 4月25日、146人（4、5、6月分）876万円を支給。
- ・ 6月25日、69人（4、5、6月分）414万円を支給。
- ・ 7月25日、215人（7、8、9月分）1,290万円を支給。
- ・ 10月24日、215人（10、11、12月分）1,290万円を支給。
- ・ 2015年1月23日、214人（1、2、3月分）1,284万円を支給。1人退学
合計5,154万円

公益事業4 国際協力に関する事業（事業種別 15.16）

（キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分8）

◎世界子ども救援キャンペーン（委託費より270万円を支出）

主な事業は、毎日新聞社との共催事業で記者を海外に派遣、帰国後に紙面連載で救援をアピールする「世界子ども救援キャンペーン」。国際児童年（1979年）に「飢

餓・貧困・難民救済キャンペーン」としてスタートし、アジア、アフリカ地域などに記者を派遣している。

14年度は大阪本社社会部・松井聡、写真部・望月亮一記者をハイチ共和国とドミニカ共和国に5月28日から6月26日まで（現地滞在は25日間）派遣した。昨年9月に同取材陣がハイチを訪れたが交通事故の為、取材を完結できず帰国。ハイチとドミニカを再訪、児童売買と2010年に発生した大震災の被災者をテーマに首都ポルトープランスなどを中心に取材。「見えない鎖 ハイチ・ドミニカ報告」のタイトルで7月22日付朝刊から27日まで6回にわたり連載した。8月31日、10月5日には見開き特集も掲載した。

*** 「写真パネルの貸し出し」**

2014年の取材をもとにした貸し出し用写真を（募金を条件に）2団体に無料貸し出しをした。

◎ 世界子ども救援金

*** 「世界子ども救援金」**

読者らから寄せられた「世界子ども救援金(海外の災害救援金を含む)」は3月末現在790件958万円。

世界子ども救援金指定、一般公募の「公募助成分」、紙面で掲載された地域や団体を中心にした「取材地助成」、これまでの取材地への「継続支援助成分」の3つの助成を行った。いずれも活動内容、実績などから選考した。また、指定寄付金7.5万円を日本ユニセフ協会に贈った。

(助成(応募型)事業 事業区分13)

◎ 「世界子ども救援金」公募助成制度 (支払助成金より120万円を支出)

海外での支援活動を行う団体を11月に紙面で一般公募、1月29日に選考委員会を開催。次の4団体に各30万円、総額120万円を贈呈。

- ・マナムニ母子寮関西連絡所（バングラデシュ・チッタゴンにあるマナムニ母子寮での子ども支援）
- ・シエラレオネフレンズ（シエラレオネでの子どもたちの支援活動）
- ・日本国際ボランティアセンター（アフリカ・スーダン、南コルドファン州での大規模紛争による避難民・難民に対する支援プロジェクト）
- ・ネパール・ヨードを支える会（ネパールでのヨード欠乏症に悩む子どもたちへの支援）

◎ 「世界子ども救援金取材地助成」（支払助成金より150万円を支出）

3団体へ総額150万円を贈呈。

- ・ハイチ友の会 70万円

- ・ 難民を助ける会（AAR）40万円
- ・ CODE海外災害援助市民センター 40万円

◎「世界子ども救援金継続支援助成」（支払助成金より 30万円を支出）

継続支援助成、1団体へ 30万円を贈呈。

- ・ 国連UNHCR協会（国連難民高等弁務官事務所 UNHCR マリ難民支援）

*世界子ども救援金 指定寄付（支払助成金より 7.5万円を支出）

本団へ届いた世界子ども救援金指定寄付、指定先の日本ユニセフ協会へ 7.5万円を贈呈した。

2014年（平成26年）度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2015年（平成27年）5月
公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団

以 上